

### 第3次健康きさらづ21 第1回協議会計画案との修正箇所

番号	ページ数	修正前	修正後	修正理由
1	目次	第Ⅱ編 木更津市母子保健計画 第2章 計画の基本理念と基本方針 1. 計画の基本理念 2. 計画の基本方針 第Ⅲ編 木更津市食育推進計画 第2章 計画の基本理念と基本目標	表記内「計画の」を削除	表記内容精査により
2	目次	第Ⅲ編 木更津市食育推進計画 ア 第2章 計画の基本理念と基本目標 イ 2. 基本目標 ウ 3. 取り組み方針	ア 基本目標を基本方針に修正 イ 削除 ウ 2. 基本方針に修正	表記内容精査により
3	目次	第Ⅲ編 木更津市食育推進計画 第1章 計画策定にあたって 3. 計画の期間	3. 計画期間に修正	他の計画表記と整合性を図るため
4	6	(2)計画の期間	(2)計画期間に修正	他の計画表記と整合性を図るため
5	38	がん検診を受診しやすい環境を整備していきます	「がん検診の継続的、安定的な運営の維持に努めるとともに受診しやすい環境を整備していきます」に修正	がん体制の見直しによる変更。
6	50	脂質の多い食品内 せんべいをよく食べる	「せいべい」を削除	表記内容精査により
7	55	6)評価 身体活動・運動習慣のある人の増加 若年期(30歳代)健康診査 ア 現状-51.6% イ年度 H26 特定健康診査 ウ 現状-調査予定 エ 調査後設定	ア 57.6% イ H27 ウ 34.8% エ 38.0%以上 に修正	最新データに変更のため
8	57	6)評価 未成年者の飲酒防止 ア 現状-調査予定 イ 目標-調査後設定	ア 26校 イ 32校(全小中学校)に修正	市立小中学校調査
9	57	6)評価 多量飲酒者の減少 現状 -今後調査予定	H28年度調査予定	表記内容精査により
10	59	6)評価 未成年者の喫煙防止 ア 現状 -調査予定 イ 目標 調査後設定	ア 32校 イ 32校(全小中学校)に修正	市立小中学校調査
11	63	6)評価 睡眠による休養を十分とれていない者の割合の減少 ア 現状 -調査予定 イ 目標 調査後設定	ア 30.1% イ 30.0%以下	最新データに変更のため
12	64.65	3. 評価指標 調査予定	上記 現状、目標の修正内容を再掲	
13	70	図内 ア 計画スタート イ 今回計画スタート ウ 目標年度表記なし	ア 削除 イ 「今回」を削除 ウ 図上段に「34年度」、図下段に「目標年度」を追加	他の計画表記と整合性を図るため
14	71	ア 第2章 計画の基本理念と基本方針 イ 1. 計画の基本理念 2. 計画の基本方針	表記内「計画の」を削除	他の計画表記と整合性を図るため
15	96	《方針2》学童期・思春期から成人期に向けた保健対策 ア 小児生活習慣病予防健診の個別事後指導を実施している学校数の増加 イ 現状 -調査予定 ウ 目標 調査後設定	小児生活習慣病予防健診の「医学的管理(a)」、「要経過観察(b)」、「要生活指導(c)」と判定された者に対して個別指導を実施している学校数の増加 ※個別保健指導とは、児童または生徒あるいは、保護者に健診結果の保健指導を直接で実施することです。に修正 イ 現状 小学校 実施 16校 未実施 2校 対象者なし1校 中学校 実施8校 未実施3校 対象者なし2校 に修正 ウ 目標 対象者がいる小中学校全てで個別保健指導の実施 に修正	市立小中学校調査

番号	ページ数	修正前	修正後	修正理由
16	103	第2章 計画の基本理念と基本目標	「計画の」を削除、基本目標を基本方針に修正	表記内容精査により
17	103	ア 基本目標 1)～3) イ 3 取り組み方針	ア 基本目標1)～3)全て削除 イ 2基本方針 に修正	表記内容精査により
18	104	(2)欠食	(2)朝食の欠食 に修正	表記内容精査により
19	104	ア 家族と一緒に食事をする回数は、朝・夕とも5・6回以上であり、ほぼ毎日朝・夕とも家族と一緒に食べています。子ども一人で食事をしているのは、夕食よりも朝食が僅かに多く、親自身が夜遅くまで就労することによる起床時間の遅れ等から、出勤前の少ない時間に座って食べていないこと、朝食を食べる習慣がないこと等があります。また、若年期健康診査から30代男性の欠食がおおよそ40%、女性は20%でした。共食と欠食は密接に関係しており、親世代の欠食は子どもに影響することから、共食の有効性や欠食の弊害を啓発する必要があります。	ア(1)共食 ※の説明後 「共食の回数は朝・夕とも6回以上であり、1週間の内でほぼ毎日誰かと一緒に食べています。」を追加。  (2)朝食の欠食 若年期健康診査問診票から欠食は、30代男性がおおよそ40%、女性は20%でした。欠食理由として、夕食の食べ過ぎ、時間が遅く朝空腹感がわからない、起床時間の遅れ、朝食を食べる習慣がない等が考えられます。30代の親世代の欠食は子どもと一緒に食事ができない状況が生まれることから、共食の有効性や欠食の弊害を啓発する必要があります。 に修正	表記内容精査により
20	110	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の週当たりの回数の増加 ア 現状 調査予定 イ 目標 調査後設定	ア 12.7回(保育園)11.4回(小学校)9.7回(中学校) イ 14回(保育園)13回(小学校)11回(中学校)	食に関するアンケート実施結果より
21	110	毎月「19日」は「食育の日」を知っている者の割合の増加 ア 現状 調査予定 イ 目標 調査後設定	ア 17.6%(保育園)21.1%(小学校)7.2%(中学校) イ 35.0%以上(保育園)42.0%以上(小学校)45.0%以上(中学校)	食に関するアンケート実施結果より
22	110	学校給食における地場産物の使用割合の増加 ア 現状 35.5% イ 年度 H26	ア 36.9% イ H27	最新データに変更のため
23	110	学校給食における国産食材の使用割合の増加 ア 現状 98.7% イ 目標 維持 ウ 年度 H26	ア 86.6% イ 増加 ウ H27	最新データに変更のため
24	111	《方針3》生活習慣病を予防する食生活を実践しよう 朝食を欠食する者の割合の減少 保育園食に関するアンケート ア 現状-調査予定 イ 目標-調査後設定	ア 0.2% イ 0.0%	食に関するアンケート実施結果より
25	111	《方針3》生活習慣病を予防する食生活を実施しよう 朝食を欠食するものの割合の減少 ア 現状 7.4% イ 現状値の根拠・出典 学校給食実施状況調査 ウ 年度 H25	ア 7.4%(小5) 17.7%(中2) イ 学校給食実施状況調査(小5) " (中2) ウ H26	現状・目標を小学校と中学校に分けたため 最新データに変更のため
26	111	朝食を欠食するものの割合の減少 若年期(30歳代)健康診査 ア 現状 男性 8.8% 女性 15.7% イ 年度 H26	ア 男性 6.8% 女性 14.7% イ H27	最新データに変更のため
27	111	朝食を欠食する者の割合の減少 現状 男性 -今後調査予定 女性 -今後調査予定	男性 女性 平成28年度調査予定 に修正	表記内容精査により

番号	ページ数	修正前	修正後	修正理由
28	111	主食・主菜・副菜を取り揃えて食べている者の割合の増加 保育園、小学校、中学校 ア 現状 調査予定 イ 目標 調査後設定	ア 男児 62.2% 女児 68.5%(保育園) 男児68.5% 女児69.1%(小学校) 男児67.6% 女児 64.3%(中学校) イ 75.0%以上(保育園、小学校、中学校)	食に関するアンケート実施結果より
29	111	主食・主菜・副菜を取り揃えて食べている者の割合の増加 若年期(30歳代)健康診査 ア 現状 男性14.5% 女性54.6% イ 年度 H26	ア 男性 13.5% 女性 57.8% イ H27	最新データに変更のため
30	111	主食・主菜・副菜を取り揃えて食べている者の割合の増加 現状 男性 -今後調査予定 女性 -今後調査予定	男性 女性 平成28年度調査予定 に修正	表記内容精査により
31	116	ア 3計画の期間 イ 計画の期間を平成28年 ウ 平成28年から平成34年まで	ア 3計画期間 イ 計画期間を平成28年 ウ 平成28年度から平成34年度まで に修正	ア、イ 他の計画表記と整合性を図るため ウ 表記内容精査により
32	116	第IV編 木更津市歯科保健計画 3 計画の期間	3 計画期間の図 を挿入	他の計画表記と整合性を図るため
33	148	用語解説 ■健康格差 地域や社会経済状況の違いによる集団間の健康状態の差のことです。	■健康格差 あらゆる世代の健やかな暮らしを支える良好な社会環境を構築することにより、地域や社会経済状況の違いによる集団間や社会経済状況の違いによる集団間の健康状態の差を縮小することです。本市では、「健康格差」を「予防可能な生活習慣病で、生命や健康寿命が短くならないよう、全てのライフステージにある市民が、地域や経済状況に左右されることなく、生活習慣病に関する知識を得る機会があり、生活習慣の改善の実践、また適切な医療を適切な時期に受けられるなど、自己管理能力を高めること」と定義しその縮小に努めます。 に修正	第2回健康づくり推進協議会意見により